

『第6回苫小牧市地域福祉計画推進委員会』議事録（要旨）

日 時：平成26年10月22日（水）午後1時30分から午後3時00分

場 所：苫小牧市役所9階 第1委員会室

<開 会>

（司会：金谷社会福祉課長）

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

福祉部社会福祉課の金谷です、よろしくお願いいたします。会議に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

～配布資料の確認と欠席委員の報告～

それでは、ここからの議事進行は、中田委員長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

<議 事 (1) 『「市民アンケート」の集計結果について』 >

（議長：中田委員長）

ただいまより『第6回地域福祉計画推進委員会』を行いたいと思いますが、会議次第により議事の進行をさせていただきたいと思います。

それでは最初に、議事(1)『「市民アンケート」の集計結果について』事務局より説明をお願いいたします。

（事務局：上林主事）

～資料1『市民アンケート』の集計結果について説明抜粋～

【回収件数及び回収率について】

前回調査： 980件・49%

今回調査： 778件・38.9%

約200件・10.1%の減少

※H25.8月に障害福祉係で行った『苫小牧市福祉のまちづくり推進計画及び苫小牧市障がい者計画策定』のためのアンケート調査では、35.6%

【前回との差が顕著に見られた部分について】

1. あなた自身についての質問です。

問2、『年齢構成について』

「60歳以上・70歳以上」8%増加

問3、『職業について』

「会社員・アルバイト等何らかの職についている方」7%減少

「無職」6%増加

問4、『世帯構成について』

「2世代世帯」が減「夫婦のみ」が増加

問5、『高齢者・障がい者の世帯員について』

「いない」5%減少

「高齢者がいる」4%増加

※高齢化・核家族化の傾向が見られる結果。

2. 地域への関わりと地域活動に対する考え方についての質問です。

問9、『参加頻度について』

「ときどき参加している」7%減少

「まったく参加していない」5%増加

※参加頻度が減少している結果

3. 地域福祉に対する考え方と参加意向についての質問です。

問14、『あなたが出来る支援について』

「災害時の避難支援や声かけ」が増加

問16、『受けたいと思う支援や協力について』

「災害時の手助けについて」が増加

問17、『支援や協力をして欲しい人について』

「近所の人、友人知人、ボランティア」が減少

「民生委員・児童委員、町内会役員公的なサービス機関」が増加

※公的な機関・団体への期待が増加

問 18、『地域住民からの支援を受けたくない理由について』

「他人の世話になりたくない」が半減し11%

「プライバシーが守られるか不安」が約2倍の17%の増加

また、3%から10%に増加した「その他」については、「まだ健康である、
家族に頼んでいる、必要ない」という意見が見られる。

問 19、『地域福祉の充実のための行政と住民の関係について』

「出来る限り行政が行う」 6%増加

「協力して行う」 5%減少

「手の届かない部分のみ行政」 2%減少

※行政の積極的な関わりを望む回答が増加

4. 生活課題とその解決方法などについての質問です。

問 20、『関心のある福祉の分野について』

「青少年の健全育成に関すること」 3%減少

「防犯・災害時の対応に関すること」 4%増加

※問 14・16 同様、防犯・防災についての意識が高まっている傾向

問 21、『悩みや不安を相談したい相手について』

「友人・知人・職場の人」 3%減少

「家族・親戚」 3%増加

「地域包括支援センター」 3%増加

※親族や問 17 同様、公的な機関への期待が増加

問 22、『災害時・緊急時の支援体制について』

「支援を自ら発することのできない場合にサポートが必要な方だと分かるよう
なツールの普及を推進する」を新規項目として追加し、12%の回答有

問 23、『福祉のサービスや施設についての情報について』

「ほとんど出来ていない」 5%減少

「ある程度出来ている」 3%増加

「あまりできていない」 2%増加

問 25、『地域住民の助け合いの活性化のために行うべき施策について』

「サービスを提供する事業所の整備・充実」 3%増加

「高齢者や障がい者が在宅生活できるサービス内容の充実」 4%減少

問 26、『サービスの充実と負担について』

「重くなってもやむを得ない」 1%減少

「ある程度の負担はやむを得ない」 3%減少

「負担を軽くすべき」 1%増加

「負担が増えるのは好ましくない」 3%増加

※現状維持、または負担の軽減を望む回答が増加

(議長：中田委員長)

ありがとうございました。

ただいまアンケート結果の報告をいただきましたが、これについて皆さんの方からご意見・ご質問はございますでしょうか。

(伊藤委員)

10 ページ目の問 18 のところで、「他人の世話になりたくない」が半減して「プライバシーが守られるか不安」が倍増したという説明があったのですが、前回の調査はいつですか。

(事務局：上林主事)

今回は、平成 21 年 11 月から 12 月上旬にかけての調査となっております。

(伊藤委員)

それで、質問項目とか文言とかは全く同じでおやりになってる。

(事務局：上林主事)

1 項目（問 22）以外は全く同じです。

(伊藤委員)

分かりました。問 18 だけ倍増したり半減したりするというのは非常に不自然で、こういうことが起こると集計ミスを疑いたくなるのですが、そのあたりは大丈夫でしょうか。

(事務局：上林)

はい。

(伊藤委員)

では、もう純粹にそういう結果が出たということですね。分かりました。

(議長：中田委員長)

ありがとうございます。他にいかかでしょうか。

《特になし》

<議 事 (2) 『「地域懇談会」の開催について』>

(議長：中田委員長)

他にご意見等なければ、議事 (2) 『「地域懇談会」の開催について』事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：力山課長補佐)

～資料2・3・4についての説明抜粋～

『地域懇談会』のメンバー構成ですが、当委員会の委員さんを除く5つの団体に、参加者の推薦を御依頼しております。全体を6～7人編成の5班に分け、議論いただきます。班の構成では、市内東部、西部と中央部といったような地域性を考慮した班編成にしたいと考えています。実施予定は来月11月26日の13:30からを予定しております。開催場所は市役所の9階会議室を予定しております。資料2の裏面をご覧ください。実施内容についてですが、各グループのリーダーが進行役となり、ディスカッションを行い、全体の場で発表し参加者全員で認識の共有を図ります。

『地域懇談会』を開催する前に、『総括コーディネーター』と『各班のリーダー』を対象として『事前説明会』の開催を予定しております。説明会につきましては、班編成が確定した段階で、日程等調整させていただきたいと思っております。また、各班のリーダーの選出につきましても、同様に、班編成が完了した段階で事務局から委員さんへ個別に御連絡を差し上げたいと考えておりますので、その際には何卒御協力の程よろしくをお願いいたします。なお、リーダーの選考につきましては、中田委員長と相談しながら事務局で人選したいと考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

それでは続きまして、『地域懇談会』の次第について御説明させていただきたいと存じます。お手元の資料3をご覧ください。次第5の『活みなぎるふくしのまちづくり』についてですが、これは実は今年度の『まちかどミーティング』で各町内会にお邪魔した際に、私ども福祉部や総合政策部の若手職員が行っている寸劇でございます。各町内会でも大変好評を頂いており、とかく難しく考えがちな福祉の課題について、身近な問題として捉える契機になるものと考えており、この寸劇を見ていただいたあと、各々の参加者が感じた感想や課題を出し合い、最後に各グループごとに意見を発表していただきたいと思いますと考えています。出された意見につきましては、現在、市が実施している事業やアンケート結果から得られた課題との整合性について検証を行い、計画に反映していきたいと考えています。

最後に、計画改定までのスケジュールについてですが、『地域懇談会』終了後には、市の関係課で構成されています『庁内推進委員会』を開催し、『地域懇談会』の結果について、市内部での検証を行う予定です。その後、第7回目の『推進委員会』を開催し、庁内で検討を行った結果について御報告を行う予定となっております。

平成27年度につきましては、早い段階で次期計画の素案を策定し、パブリックコメント等を行い、最終的に来年度末までに第2期計画を決定する運びとなります。

以上、議事（2）についての御説明を終わります。

（議長：中田委員長）

ありがとうございます。

ただいま、事務局から『地域懇談会』の概要について説明がありました。『地域福祉計画』策定の際にも開催しておりますが、構成としては前回と同様に地区別に5つの班に分かれて、それぞれのグループにリーダーを配置し地域課題について話し合う形で、懇談会開催前にリーダーが決まったら事前説明会を行い、当日に備えるということになります。今回は新たに、参加者が意見を出しやすい雰囲気を作るために、或いは、どういった形で意見を出していけばいいのかという部分で、今年の『まちかどミーティング』で取り入れて各町内会で好評という、市の若手職員による寸劇『活気にみなぎるふくしのまちづくり』を懇談会の導入部分で披露して、その後、「各グループによる意見交換・全体発表・まとめ」という流れで懇談会を進めて行きたいという説明だったのですが、皆様からこれについてご意見・ご質問あればよろしく願いいたします。

(本間委員)

そもそも目的のところ『地域福祉計画』を改定するにあたって、地域福祉に対する市民の意識を把握するというのがすごく貴重ではあると思います。それでアンケートを実施して、それに基づいて懇談会を開催するという事ですが、この構成だと市民というところで、代表をされている方はたくさんいますが、当事者がいない感じがします。例えば、高齢者だと老人クラブの方とか、障がい者の方、介護されてる家族の方々もそうでしょうし、また、『まちかどミーティング』の会場で発言されてる方もそうですし、そういう声を生かせるような方が参加されるというのも、目的からいうと大変重要なのかなと思うところです。

地域包括支援センター連絡協議会の中で十分な協議をしておりますが、参加出来るのであれば、地域包括支援センターのメンバーも参加させていただければありがたいという希望も含めて、意見としてよろしくお願いします。

(議長：中田委員長)

本間委員から懇談会の構成について、ご意見がありました。この関連で他の皆さんからもご質問等ございますか。

(尾野委員)

グループワークの時にリーダーはもちろんの事だが、書記はいらっしゃらないのですか、発表はリーダーが一人で全部まとめるのですか。

(事務局：力山課長補佐)

書記につきましては、ここに明記をしておりますが、グループの中で適宜決めていただく様な流れを考えていまして、尾野委員さんがおっしゃるように、リーダーが一人で全部出来る訳ではないので、その辺りは配慮したいと思います。

本間委員からいただいた、当事者の声をもっと取り入れたらという御意見ですが、老人クラブとか色々各団体や関係機関等があるかと思いますが、町内会の役員、福祉関係の事業所、ボランティア団体に声をかけさせていただいておりますが、委員のおっしゃる当事者の部分については、事務局としても再検討させていただきます。

(議長：中田委員長)

現在の構成メンバーは5名ずつですが、これにプラスしていく可能性もあるということですね。

(事務局：力山課長補佐)

そうですね。会場は広いので人数が増えても問題はないので、当事者の生の声という部分も取り入れていければと思っております。

(議長：中田委員長)

他、地域懇談会の事についてご意見ありますか。

(水口委員)

ボランティア連絡協議会に『ボランティア団体から5名選出』という事で依頼が来てるのですが、こうなるとボランティア連絡協議会から役員5名を出すということになりますので、ボランティア団体というのはボランティア連絡協議会だけではないので、今回はもう間に合いませんが、次回開催することがあれば、その辺を考慮していただければと思います。

(議長：中田委員長)

以前に『みんなでふくし大作戦！』の中で、色々ボランティア活動を行っている方を発掘していくという取り組みがあったかと思うのですが、団体だけではなく、個人的にボランティア活動している方で地域活動を熱心にされている方は、広い視野では含まれているのではないかと思います。

(事務局：力山課長補佐)

協議会に参加されていないが、ボランティア活動をされている方々にも声をかけると言うことですか。

(水口委員)

ボランティア連絡協議会から5名選出はすることも可能ですが、その他にも個人ボランティアからも選出という形で、ボランティア全体から5名選出というのが一番助かります。

(事務局：力山課長補佐)

ボランティアという括りをもう少し広げて声をかけさせていただくということで。

(水口委員)

市役所の立場からだ、ボランティア連絡協議会から選出した方がいいのかもしれないが、もっと広域の範囲で選出を募った方が良いのではないかと。

(事務局：力山課長補佐)

貴重なご意見ありがとうございます。

(議長：中田委員長)

懇談会の中で、今回のアンケートの結果をどのように活用していくのでしょうか。

(事務局：力山課長補佐)

その部分は、リーダーによる部分が大きくて、リーダーにつきましては推進委員会の皆様の中から5名をお願いしようかと考えております。当日、このアンケートを承知の上で参加いただくのがリーダーという事になりますので、リーダーの方にはこのアンケートを活用していただくといいますか、アンケートの中で『地域福祉の人材の育成』『行政からの情報発信が足りない』という意見を頂戴しているのですが、実は寸劇自体がそういった内容を反映された構成となっておりますので、そういった部分でアンケートの活用ということになるかと思えます。

(議長：中田委員長)

各班のリーダーについては、推進委員の中から選考という形になりますので、今回のアンケート内容等を熟読していただき、もっと内容を深めたい部分は事務局に問い合わせただければと思います。懇談会は11月26日になっておりますので、リーダーを選出してから懇談会の準備、班の構成を検討する時間とかも必要かと思えます。

(事務局：力山課長補佐)

はい。事前説明会の中でさらに検討出来ればと。

(伊藤委員)

すいません。問18についてさっきから気になって仕方ないのですが、質問したらこういう結果が出ました、じゃあそこから先の分析というのはしていかないんですか。とりあえずそこはリーダー任せで分析してそれを各グループで反映してと、全体としてのアンケートの分析はしないという事で理解してよろしいですか。

(事務局：力山課長補佐)

リーダーさんにはもちろん読み込みをお願いしたいと思っておりますが、伊藤委員がおっしゃられた、アンケートのさらなる分析ということは事務局でさせていただきます。事前説明会の中でアンケートではこういう傾向があるという事で、事務局から議論のきっかけを提示させていただきたいと思えます。

(伊藤委員)

わかりました。ありがとうございます。

(事務局：力山課長補佐)

せっかく良い素材が手元にあるのでこれはもっと活用して懇談会や懇談会が終わった後の計画の素案を作っていく中で、取り入れていきたいなと考えております。事務局としましては、当初アンケートで得られた結果の特徴的な意見を取りまとめた懇談会のテーマにしようかと考えましたが、それらを含んだ形での『まちかどミーティング』の寸劇があって、それが市長の公約と繋がってる部分もあり、この寸劇を取り入れる事によって市の政策と計画が繋がっていくのではないかと、事務局では考えております。

(伊藤委員)

ありがとうございます。

(議長：中田委員長)

先程『まちかどミーティング』が半分ほど終わったとのことでしたが、地域福祉に関する意見とかどこかで入ってきますか。

(事務局：山本部長)

『まちかどミーティング』を開催する際に、各町内会の方から事前要項をあげていただくのですが、現実なところ道路の整備に関する事や大雨に関する事が非常に集中してまして、福祉関係の事前要望やご意見はあまりいただいてない状況で、あと残りの7ヵ所でどんな事前要望が上がってくるかっていうところですが、おそらく同じ傾向なのではと思っております。当日『その他』ということで、その場にいらして市民の方からご意見が出る場合があるのですが、福祉に関するものがあればこちらの方でピックアップしたいと思っております。今のところ『まちかどミーティング』の場で、今後の苦小牧の福祉をどのように考えていくかという具体的なご意見は出ていない状況でございます。

(議長：中田委員長)

分かりました。他はいかがでしょうか。

(井上啓一委員)

今までの『まちかどミーティング』に出てる意見等々については、福祉に関する市

の公約についての市民の意見というのはほとんどないです。今部長がおっしゃった道路の対策、大雨対策、土砂対策だとか、地域の看板の表示が壊れてるとか、本来の福祉に対する要望や意見がほとんどないですね。寸劇だけで福祉を訴えられることが出来るのかどうかをもう一度考えていただいて、事前に福祉の問題はどうか『まちかどミーティング』に出していただきたいと思います。当日出せと言われても、おそらく福祉に関する問題はほとんどないかと思います。

(議長：中田委員長)

『まちかどミーティング』で寸劇を披露して、それに対する参加者の反応や意見、質問とかそういったアクションはどうするのですか。

(事務局：山本部長)

今年の『まちかどミーティング』の共通のテーマが『活気にみなぎるふくしのまちづくり』ということで寸劇をしているのですが、その寸劇が終わった後に、各地区の町内会の会長あるいは福祉部長から、その地区でどんな取り組みがされているのか発表していただいている場面があります。例えば、高齢者の方々のサロンを開いてますとか見守り活動をやってますという各地域でこういった取り組みがされていますという紹介は出来るかなと思います。

ただ、残念ながらそういった事もやるのですが、実際に寸劇を見ていただいた市民の方々から『活気にみなぎるふくしのまちづくり』についての疑問や質問・ご意見がなかなか出てきてないというのが現状ではございます。

(議長：中田委員長)

寸劇が終わった後に、各町内会長さんから地区の取り組みについて説明していただいているという事ですね。計画を見直す際にこういった計画を作っていけばいいのかという部分で新しい発想も当然あるでしょうが、既存の活動の中で地域でアレンジ出来る部分もあるかと思います。懇談会の中でこういった取り組みがされてる地域があるといた良い例があれば議論の材料としても扱いやすいかなと思いますし、懇談会の議論も深まるかなと思います。

(事務局：山本部長)

『まちかどミーティング』に毎回出席しているのですが、私が思っている以上に各町内会さんで色々な取り組みがされているなど改めて認識出来ましたので、実はこれだけの取り組みが行政主導ではなくて、各地域の方々に色々考えられた中でこんな取り組みをされていますという概略ではありますが資料としてご用意してご紹介出来れば

とそのように考えております。

(議長：中田委員長)

他の皆様はいかがですか。

(白鳥委員)

私も『まちかどミーティング』に毎年出席しているのですが、今の『まちかどミーティング』というのは複数の町内会が一同に会して行う訳です。共通テーマの他に各町内会の持っている色々な問題を提起されるので、与えられた時間の中で寸劇なんかやられると時間がなくなってしまいうんですよね。夜ですから時間が無制限にあるように思いますが、各町内会から色々な問題が提起されますから事前に市の方に要望事項を提出する町内会もあればその場で提起するということがありますので、議論する時間がないように思います。この寸劇がどのようなものか分かりませんが、寸劇を見てすぐ福祉の問題があがるとは思えないんです。みなさんも戸惑うのではないのでしょうか。なぜ、福祉が今一番大事なのかというのを説明された方がよろしいのではないのでしょうか。

(事務局：山本部長)

今ご意見いただきましたけど、正しくその通りの内容の寸劇です。新聞・テレビ等で拝見されていると思いますけれども、これからどんどん高齢者の方が増えていく中で、生産年齢人口がどんどん減っていく訳で、これは苫小牧だけの問題ではなくて、日本全体としてもどんどんこれから高齢者が増えていってそれを支える担い手の若者が減っていく中で、「福祉ってどういう風に考えていくのか」というのが大きなテーマになるんです。そういった問題提起も含めて行っているのがこの寸劇なんです。当日ご覧になっていただいて普段からそういう問題意識を持っている方には共感していただけると、私たちは自信を持って思っております。おそらく各町内会で色々な取り組みの中心的な役割を担っている方も寸劇をご覧になった時に「やっぱり自分達のやっている方向は間違っていないぞ」とか、「こういう考え方もあるのか」という、色々な意見を持っていただける内容になっております。事前にみなさんに見ていただければよろしいのかと思っておりますが、非常に期待していただいて良い内容かと思っております。

(木村委員)

町内会の役員をしてるのですが、先日の水害の際に、独居老人世帯や高齢者世帯に「大丈夫ですか」とお電話しました。今までお電話した事なかったんですが、まず第一に「寂しい」それから「遊びにきてくれ」「どこかにみんな集まる場所はないのか」

と言われました。この前の町内会の会議で、水害や台風の時に町内会館を使って集まってもらったらどうですかと提案しました。結局町内会の役員としてそのような事をしたことがないので、「寂しい」や「怖い」というのが分からなかったんです。町内会の役員やっても全然見えなかったし、話ししても返って来なかったんです。役員とかではなくて、そういう時にどうしたら良いのかという事や場所等を考えて欲しいと思いますね。

(議長：中田委員長)

そういった内容も懇談会の中で深めていければと思いますし、実際に地区毎に災害とか、例えば前の大雨の時には西の方で結構被害があったりとかで、そういった経験を元にした材料とかもあればいいですかね。

(本間委員)

お話し聞いてて寸劇を見るのがとても楽しみなのですが、グループワークに参加される方の中には寸劇からすぐ意見が言える方もいれば、少し準備や気持ちの上でも含めて時間を必要とする方もいらっしゃると思うので、この懇談会に召集される方々に何かベースとなる準備が出来る様な資料とかこういう事の検討の中でご意見をいただきたいとか、事前準備が出来る様なご案内をしていただけたらグループワークをする上ではとてもありがたいなと思うんですけど。

(議長：中田委員長)

このあと7カ所の町内会全てで寸劇を行うのですか。

(事務局：山本部長)

はい。全て行います。

(議長：中田委員長)

ビデオ等で事前説明会の時に皆で見てというのは。

(事務局：上林)

ビデオで小さいんですが、一番最初の地区のものはあります。

(事務局：望月次長)

寸劇に関してはぜひ生でその時に見ていただきたいのと、事前の資料については色々工夫をしてご用意させていただきまして、それを持って寸劇を見ていただきたい

など、これまでの『まちかどミーティング』の時の共通テーマの説明の仕方は、市からのパネルを使っての一方的な説明というやり方でやらせていただいたので皆さんそれで慣れていて、一応事務局の方から説明させていただいて「何か質問ありますか」というやり方だったのですが、今回の寸劇というのは色々みなさんに考えてもらいながら参加をしてもらいながら一緒にやっていくという事で、あまり期待を高めると当日ちょっと失望したら困るんですけど、出来るだけ自分達で色々考えて参加していけるような構成内容となっておりますので、事前の資料はお渡ししますが寸劇を見ていただいでぜひ一緒にスタートしてやっていただければ、今までとはまた違う形での検討が出来るのかなと思います。

事務局の中のメンバーで上林が出演しておりますので、十分に期待に答えてくれるものと思っておりますので、ぜひ皆さんご協力のほどよろしく願いいたします。

(議長：中田委員長)

事前資料の部分で、リーダーが寸劇からグループワークに上手く繋げられるような資料をご用意いただくという事でよろしいですかね。

(水口委員)

寸劇は私も見てるんですが、期待出来るくらいのあてはあるんじゃないのかなと感じました。今回若手職員がやってるのが素晴らしいのですが、その辺で訴えるものがあるんじゃないかなと。会場の皆さんに考えて欲しい部分もありそこで一緒に考えてくれば成果かなと思って見ておりましたが、寸劇って馬鹿にするのではなく何かヒントを与えてくれるかなと感じました。

(事務局：望月次長)

考えるポイントは色々あるように作ってあり、決してひとつではない、それぞれ色々な立場から入っていけるようになっていきますので、色々な方向性に繋がっていくと思います。

(事務局：上林)

参加者からも意思表示出来るように『○×うちわ』を配布して、僕らが出している内容について『同意出来る・出来ない』とかそういう部分もあり、こちらから意見も求めている時だけではなく、常にお互いに意思表示をしていくような寸劇になっています。また、最初にアイスブレイク的な要素でクイズもありますので、会議の固くなっている雰囲気をはぐすことも出来るのではと思います。

(議長：中田委員長)

そういう効果も狙っているということで、おそらく皆さん緊張して来られると思いますので、最初の段階でアイスブレイクということでリラックスした形で会議に入っていけるという意味合いもあるそうなので、上林さんはじめ出演者の演技に期待したいと思います。

残りの7ヶ所というのはどこになるのですか。

～事務局から今後の『まちかどミーティング』のスケジュールについて説明～

(議長：中田委員長)

望月次長は当日までというお話でしたが、もし機会がある方は事前に会場へ足を運んで見てもらうということは構わないと思いますので、ご覧になっていただければと思います。

(議長：中田委員長)

他にご意見いかかですか。

(本間委員)

この寸劇の台本等を作った次期とアンケート調査の結果が出た次期というのは分からないのですが、先程のお話の中で前回平成21年度にアンケートをして、今回も同じ項目でアンケートをしたというところで、今後苫小牧市においてこの計画を検討していく中で、何か危惧して注意しながら関わらないといけないポイントとかがあれば、懇談会で役に立つと思いますので、今すぐでなくて構わないのですが、ぜひ事前説明会の時とかに教えていただければと思うのですが。

私が見た中では、結構行政とか専門機関等を頼りにしている方々が増えている。そういう意味では近隣の方々が一生懸命関わっていても、行政とか専門家が関わるとその方々が安心して引いてしまう、そういう中で本当に近隣の関係が逆になってしまう場合もありますので、そういう意味で本当に地域で支え合うという時には専門家も必要でしょうけれども、支え合っている方々が維持しつつ広めていかなければならないという部分では、今回のアンケートの中で私がかなり気になっているところがあります。なので、ポイントを教えていただければ寸劇を見て皆で懇談して「やっぱり必要だね」ということや「ここのところは大事にして維持しなければいけないことだね」ことを確認出来ると思いますので個人の読み込みはしたいと思いますが、ぜひ当日までにポイント等を出していただければと思います。

(議長：中田委員長)

そうですね。どこかの項目で「家族がやっているから」というような回答がした場合でも、今後サービスが必要になるケースもあつたりと回答から見えない部分もあるかと思しますので、そういった部分で本間委員からあつたように前回のアンケートから逆行するような内容等の分析をしていただきたいと思います。

(白鳥委員)

この資料（アンケート問 27 の自由記載一覧）は何か寸劇と関係あるのですか。

(事務局：上林)

その資料は寸劇の資料ではなく、アンケート問 27 自由記載でいただいた意見等を全て記載したものになります。

(議長：中田委員長)

自由記載の中から何か傾向とか見えた部分はありますか。

(事務局：力山課長補佐)

自由記載の部分では先程も少し御説明させていただきましたが、健康寿命の延伸という部分で平均寿命が延びている中、健康でいられる寿命をどんどん延ばしていくというのが一人一人の課題ではないかという意見がアンケートの中にあつたのですが、介護のお世話になるならないという以前にまず健康でいるというのが、例えば、福祉の扶助費の削減というところに繋がっていくのではないかというのが、ひとつ課題としてありました。

また、行政が反省しなければならない部分なのですが、行政からの福祉に関する情報発信が不足しているといえますか、アンケートの中で『どういった方法でこういった情報を得ますか』という部分で『広報とまこまい』という回答が一番多かったのですが、やはりあの限られた紙面の中で伝えられる情報というのは非常に限られてまして、我々が思っている以上に市民の方は、どこでどんな手続きで何をしたらいいのか分からないということで、行政からの情報発信も今後の課題として認識しております。

最後に人材の育成という部分で、どこの町内会さんでもそうだと思いますが、どんどん高齢化が進んでまして、町内会役員の成り手不足という現状の中で、今色々な御意見をいただきましたが、それらを担っていく人材ってどうしたらいいのか、人材の育成ってどうしたらいいのかというのも課題かなと思います。

これらが、自由記載で見えてきた部分であります。

(議長：中田委員長)

ありがとうございます。

今の説明も含めて、皆さんからご意見・ご質問はございますか。

(井上委員)

このアンケートに対する取り組み方という部分でお聞ききたいのですが、基本的には『地域福祉計画』の改定の基礎資料として捉えているわけで、このアンケートを広く活用するといいますか、市民に配るまではいかないかもわかりませんが、そういった活用や来年もアンケートをやるのかどうか含めて説明をお願いしたいのですが。

(事務局：力山課長補佐)

今井上委員さんからいただいた『広く』という部分で、このアンケート結果を『地域福祉計画』だけではなく市全体にフィードバックしたりとか、そういったことをどういった形でアンケート内容や分析したものを発信していくのか含めて、検討中ということでもよろしくをお願いします。

(白鳥委員)

先程の資料の中に、「今、町内会離れが進んでいるが、このままでは災害などが起きたとき、地域の連携がなければ、助かる命が助からなくなったり、町内会が、しっかりしなければならぬ事が多くなると思います。役員の高齢化や一部の人間がずっと役員をやっていたり…世代交代も必要なのでは？私の住んでる町内はすごく良いけど、古い町内は、一部の人がずっと役員をやっている為、言いたい事も言えず、寄付のはずなのに、勝手に金額を決めてきたり…。同じ苫小牧市に住む人間なのに、住む町によって差があり過ぎる…」とあるのが非常に気になりますね。

(議長：中田委員長)

担い手がいないというところもあれば、長く続けていることによる弊害が一方で見えてくるという部分で、なかなか難しいですね。

(白鳥委員)

世代交代はしたいけれどもやり手が全然いないんですね。60代の人達は健康でまだまだ働いていますし、60歳以上になると老人クラブに入る権利もあるのですが全然見向きもしないということで、我々年寄りが仕方なくボランティアの形でやっているのですが、それが逆にそこにしがみついているとこのように言われるのは我々にしてみれば心外ですね。

(議長：中田委員長)

先程自由記載の分析という部分で補佐から説明がありましたが、担い手をどう育てていくのかというところがひとつ大きな課題としてあるということで、その辺も懇談会の中で議論として深めてもらう材料として考えてもらえればと思います。

(井上委員)

ひとつ加えさせていただきたいのですが、「寄付のはずなのに勝手に金額を決めてきたり…」という一文ですが、共同募金・緑の羽・赤い羽根・歳末たすけあい等の寄付をとという考え方でいえば、町内会としては「1円でも100円でもいいですよ」「まだ出される方は1,000円でも2,000円でもいいですよ」という言い方で、寄付という善意で募っているのに、必ずしも寄付なのに勝手に金額を決めているという取り組みにはなっていないのではないかと思います。

(議長：中田委員長)

『地域福祉計画』とは別に町内会活動の中での苦情というか、そういう扱いでの対応ということになりますでしょうかね。

(白鳥委員)

どうもこういう風に活字になってくるとね。寄付の部分で金額を勝手に決めているとか捉えられると、ちょっと我々としては。

(尾野委員)

(寄付で訪問すると)「他の人はいくら出してらっしゃいます」と皆さん聞くんですよ。それで「大体500円ですよ」と言われると「じゃあ500円出さないといけないのか」という、その捉え方ですよ。

(白鳥委員)

我々は「大体500円ですよ」言いますが、「それはあくまでも気持ちですから500円にこだわる必要ございませんよ」と言うのですが、まあ捉え方なんですよ。

(井上委員)

集める方は「500円でなくてもいいんですよ」「善意ですよ」という言い方で回収してもらっているのですが、「大体500円ですよ」と言ったら500円を出さざるを得なくなる、やはりその捉え方ですよ。

(議長：中田委員長)

そうですね。他にご意見はございますか。

《特になし》

<その他>

(議長：中田委員長)

特になければ、最後に『その他』の部分で、事務局から何かございますでしょうか。

(事務局：上林)

今後のスケジュールについてですが、まず11月26日(水)に『地域懇談会』、12月頃に『庁内推進委員会』、年明けて1.2月頃に再度『推進委員会』を開催したいと思っております。日程が決まり次第、皆様にご案内いたしますので、よろしくお願ひします。

(議長：中田委員長)

今後のスケジュールについて事務局から説明がありましたが、皆様からご意見等ありますでしょうか。

(水口委員)

統括コーディネーターと各班のリーダーの『事前説明会』はいつ頃になりますか。

(事務局：力山課長補佐)

まだメンバーが出揃ってませんので日時は決まっておりませんが、委員長からもありましたが、時間的な余裕が必要だということでしたので、なるべく懇談会の前に時間的な余裕を作った中で設定させていただきたいと思ひます。

(議長：中田委員長)

よろしいでしょうか。その他にございせんか。

《特になし》

それでは、本日の会議はこれもちまして終了したいと思います。長時間にわたりありがとうございました。